



# まほろばだより

2014  
Spring  
vol.09

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第9号



## Contents

- ① 新学長、センター長、マネージャーのご挨拶
- ② 女性研究者支援センターの体制
- ③ 総括シンポジウムを開催しました
- ④ 平成26年度 女性研究者支援センター「まほろば」活動計画
- ⑤ 第3回 女性研究者研究奨励賞授賞式を開催しました
- ⑥ コミュニケーションスキルを学ぼう！
- ⑦ JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラムに採択されました！
- 第9回「言い方ひとつで変わる！部下への指導」

## 新学長、センター長、マネージャーのご挨拶

平成26年3月末をもって吉岡章学長、喜多英二センター長、御輿久美子マネージャーが退官されました。

4月から新しい学長、センター長、マネージャーの下、活動を行って参ります。



### 学長 細井 裕司

奈良県立医科大学では、平成23年2月に当センターを設立し、男女共同参画に取り組んでおります。また幸いなことに、平成23年～25年度には文部科学省の事業として採択されました。

吉岡前学長の後を引き継ぎ、本学では今後も、「女性が働きやすい、働きがいのある職場」は「男性にとっても働きやすく、働きがいのある職場」であるとの基本的な考えのもと、制度や環境の整備に取り組んで参ります。みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

### センター長 車谷 典男

本センターは、「優れた女性研究者の育成を図り、もって本学の研究・教育活動を一層活性化させる」ことを目的としています。そのために、大きくは4つの役割が与えられています。①女性研究者に対する研究・教育支援に関すること、②研究・教育支援策にかかわる調査・研究に関すること、③啓発・広報に関すること、④地域連携・大学間連携に関すること、の4つです。新センター長として、これらの活動実績を継承発展させていきたいと考えています。女性が活躍し、持てる能力を十分発揮できる様な研究環境を整備したいと思いますので、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



### マネージャー 須崎 康恵

本センターでは、女性研究者および医師・看護師・薬剤師・医療技術者等の医療専門職が、臨床、教育、研究分野で指導的な役割をはたし、多様な社会貢献を可能とするための支援を目指しています。先輩女性の努力の恩恵を受けている私達が、様々な分野で多様な活躍をし、後輩女性の等身大のロールモデルとなる。その積み重ねが、奈良県立医科大学・附属病院に新たな価値をもたらすと考えます。男女全ての教職員が活躍できる様な真の男女共同参画社会をめざし、現在からしか到達できない未来へ向かって、皆様と共に歩んで行きたいと思っております。多くの人の笑顔に出会えることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。



## ≫ Report 1 総括シンポジウムを開催しました

2014年3月4日、女性研究者支援センター「まほろば」の総括シンポジウムを開催しました。  
奈良県立医科大学は、平成23年度に文部科学省 科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け、本センターを中心に女性研究者に対する様々な支援活動に取り組んできました。

まず、本センターを設立された吉岡学長から、「女性研究者支援センターでは、女性のキャリア向上のために必要な支援を行っており、今後は男女共同参画実現に向けて、強い意志と理念をもって活動を続けてほしい」との挨拶をいただきました。

次に御輿マネージャーからセンターの3年間の活動について報告を行い、研究支援員配置を受けてこられた女性教員6名による研究成果発表とパネルディスカッションを行いました。研究成果発表では、研究支援員のおかげで産休中にも実験がストップすることなく、復帰後もスムーズに研究継続が行えたという報告や、学会の若手奨励賞を受賞されたという報告もありました。

女性研究者支援センター「まほろば」は、平成23年度からの文部科学省の補助金事業は終了しましたが、4月以降も大学の独自予算で支援事業を継続することが決定しました。今後もライフイベント中の女性研究者を中心に全ての人々が学び、働きやすい環境づくりのために活動を行って参ります。



## ≫ Report 2 第3回 女性研究者研究奨励賞授賞式を開催しました

2014年3月4日、本学蔵書会館にて「第3回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞授賞式」を執り行いました。今回は、2月18日に選考委員会が開催され、中央臨床検査部 水野麗子講師が選考されました。授賞式では、喜多センター長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、水野講師が「高血圧症における心筋微小循環障害と降圧治療の関連について一心筋微小循環からみた至適降圧レベルとは」という演題で講演されました。

本学では、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。



## ≫ Report 3 JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラムに採択されました！

独立行政法人科学技術振興機構（JST）が企画提案募集を行った「平成26年度 女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に本センターの企画提案「いのちを支える医理系研究って、やってみよう！」が採択されました。

このプログラムでは、女子中高生・保護者・中高教員を対象に、「いのちを支える」医理系分野の多様さ、研究の面白さを紹介し、医理系進路選択への理解を深めてもらうためのイベントを年5回実施します。イベントでは、女性研究者による講演のほか、実験や医療手技の体験、サイエンスカフェを行います。

- \*対象\***  
中学校、高等学校の女子生徒  
保護者、中学校・高等学校の教員
- \*7月22日(火)**  
第1回「あなたは重力を感じていますか？」
- \*8月19日(火)**  
第2回「あなたを守るミクロの戦士」
- \*9月7日(日)**  
第3回「外科医になってみよう！」
- \*10月26日(日)**  
第4回「内科医のオシゴト」
- \*11月30日(日)**  
第5回「ドキドキバクバク測ってみよう！」
- \*定員\***  
女子中・高校生の方 30名/回  
保護者・教員の見学も可能
- \*参加費\***  
無料
- \*開催場所\***  
奈良県立医科大学



## 女性研究者支援センターの体制

学長: 細井 裕司

女性研究者支援センター運営委員会  
委員: センター長

- 山下 昌宏 (総務・経営担当理事)
- 今村 知明 (健康政策医学 教授)
- 小林 浩 (産婦人科学 教授)
- 緒方 奈保子 (眼科学 教授)
- 脇田 満里子 (母性看護学 教授)

女性研究者支援センター

- センター長: 車谷 典男 (医学部長)
- マネージャー: 須崎 康恵 (内科学第二講座 学内講師兼任)
- コーディネーター: 水野 文子 (微生物感染症学 講師)
- 吉田 昭三 (産婦人科学 学内講師)
- 降矢 芳子 (神経内科学 講師)
- 岡本 希 (地域健康医学 講師)
- 事務局: 研究推進課



## 平成26年度 女性研究者支援センター「まほろば」活動計画

### [1] 在籍女性研究者の研究継続支援

- ライフイベント中（育児・介護）の女性研究者への研究支援員の配置
- 研究支援員制度を利用している研究者との定期的な意見交換会
- 研究支援員との定期的な会合

### [2] 教職員の就労環境改善

- 男女共同参画推進、適正なワークライフバランスの推進、ハラスメント防止に関する研修会やシンポジウムの開催
- ホームページ、冊子、ポスター等による上記の広報活動
- ハラスメント相談業務
- 医科系大学・医療機関における望ましいワークライフバランスに関する研究

### [3] 新規参入女性研究者の増加支援

- ホームページ上での本学の女性教員比率等の定期的な公開
- 女性研究者学術研究奨励賞受賞者の講演、研究支援員を配置された女性研究者の成果発表会の開催
- 育児期の女性研究者・医師支援に関する相談業務
- 奈良県内で働く女性医師の交流会、情報交換会の開催
- 女性医師の就労継続とキャリア向上を可能にする勤務形態・就労環境に関する調査研究

### [4] 未来の女性研究者の育成推進

- 医学科学生を対象にしたキャリア教育
- 医学科学生、臨床研修医、大学院生、研究者、医師の交流会・情報交換会の開催
- 平成26年(独) 科学技術振興機構（JST）採択事業 女子中高生の理系進路選択支援プログラム「いのちを支える医理系研究って、やってみよう！」の実施（計5回）

ハラスメントを未然に防ぐためのコミュニケーションスキルについて毎号ご紹介していきます。

## 第9回 『言い方ひとつで変わる！部下への指導』

今回は、上司から部下への指導方法について考えてみましょう。

### 適切な指導でチーム全体が成長する

指導は「部下を育成する」という目的のもとに行わなければならない。「アホか！」と声を荒げたり、感情に任せて叱ってはいけません。あるいは、部下がミスをした場合や業務態度に問題がある場合に何も言わないこともチームの成長にはつながりません。

※部下に指導する際に気を付けること

- ・感情的・攻撃的にならず、冷静に注意すべき具体的な事実をきちんと伝える
- ・相手の人格否定をしない
- ・単に「〇〇はダメ」などと言うだけでなく、注意する際に「なぜならば」と理由を添える



### 失敗・解決策は隠さず、チームで共有する

仕事はチームワークであり、その中で起きたミスやトラブルは隠さないようにしましょう。まずは本人に注意し、解決策に至ったら、部局のミーティング等で、できるだけ早く情報共有しましょう。失敗を「バラす・責める」のではなく、その解決策を共有することが今後のチームワークに活かせます。

人の気持ちは、言葉だけでなく「表情」に表れます。例えば、部下が何かを言おうとした時、上司が怖い顔をして横目でチラッと見る。それだけで、部下は話すのが怖くなり委縮します。攻撃的な言動をする上司の下で育った部下は、怒られるのが怖くて失敗を隠したり、きちんと報告・連絡・相談ができなくなります。

上司は立場上、部下に注意しなければならない時もあります。日頃からきちんとした相互尊重の態度でコミュニケーションをとって育成することが大切です。同じ指導・注意をしても、信頼関係があるのとないのとでは大きく変わります。



### Information

厚生労働省 ポータルサイト 「あかるい職場応援団」

<http://www.no-pawahara.mhlw.go.jp/>

職場のパワーハラスメントの予防・解決に向けて様々な情報発信を行っています。



#### [ 編集後記 ]

4月に入り、センターは新体制となり、あっという間に2カ月が過ぎようとしています。今年度は、女子中高生の医理系進路選択支援イベントを5回開催することになり、準備にバタバタすることになりそうですが、少しでも多くの女子中高生に楽しんでもらえるような内容にするため、マネージャーを中心にスタッフ全員で頑張っていきたいと思います！

#### [ 編集・発行 ]

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL：0744-23-8011(直通)0744-22-3051(代)内線：2525  
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

